

## 説教題: 「立派にふるまいなさい」

### 聖書朗読: ペテロの手紙 第一 2 章 11-25 節

<sup>11</sup> 愛する者たちよ。あなたがたにお勧めします。旅人であり寄留者であるあなたがたは、たましいに戦いをいどむ肉の欲を遠ざけなさい。<sup>12</sup> 異邦人の中にあって、りっぱにふるまいなさい。そうすれば、彼らは、何かのことであなたがたを悪人呼ばわりしていても、あなたがたのそのりっぱな行ないを見て、おとずれの日に神をほめたたえるようになります。

<sup>13</sup> 人の立てたすべての制度に、主のゆえに従いなさい。それが主権者である王であっても、<sup>14</sup> また、悪を行なう者を罰し、善を行なう者をほめるように王から遣わされた総督であっても、そうしなさい。<sup>15</sup> というのは、善を行なって、愚かな人々の無知の口を封じることは、神のみこころだからです。<sup>16</sup> あなたがたは自由人として行動しなさい。その自由を、悪の口実に用いないで、神の奴隸として用いなさい。<sup>17</sup> すべての人を敬いなさい。兄弟たちを愛し、神を恐れ、王を尊びなさい。

<sup>18</sup> しもべたちよ。尊敬の心を込めて主人に服従しなさい。善良で優しい主人に対してだけでなく、横暴な主人に対しても従いなさい。<sup>19</sup> 人がもし、不当な苦しみを受けながらも、神の前における良心のゆえに、悲しみをこらえるなら、それは喜ばれることです。<sup>20</sup> 罪を犯したために打ちたたかれて、それを耐え忍んだからといって、何の誉れになるでしょう。けれども、善を行なっていて苦しみを受け、それを耐え忍ぶしたら、それは、神に喜ばれることです。

<sup>21</sup> あなたがたが召されたのは、実にそのためです。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました。<sup>22</sup> キリストは罪を犯したことなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。<sup>23</sup> ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。<sup>24</sup> そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。<sup>25</sup> あなたがたは、羊のようにさまよっていましたが、今は、自分のたましいの牧者であり監督者である方のもとに帰ったのです。

皆さん、おはようございます。また皆さんにお会いできてうれしいです。今日は、昨年10月に始めたペテロの手紙 第一を通してのシリーズを続けたいと思います。12月の間は長い休みを取りましたが、祝日が終わったので、ペテロの手紙 第一に戻ることができます。

ペテロの手紙の最初の二章で学んだことのいくつかを復習するために、数分間時間を見るべきでしょう。この手紙の冒頭の節、ペテロの手紙 第一の 1 章 1 節から 2 節 a を見てみましょう。—「<sup>1</sup>イエス・キリストの使徒ペテロから、ポンタ、ガラテヤ、カパドキヤ、アジア、ビティニヤに散って寄留している、選ばれた人々、すなわち、<sup>2a</sup>父なる神の予知に従い、御靈の聖めによって、イエス・キリストに従うように、またその血の注ぎかけを受けるように選ばれた人々へ。」

彼はこれらの人々を「寄留者として住む者…選ばれた者たち」と呼びます。The New International Version の聖書はこのフレーズを「神の選ばれた者たち、各州に散らされた者たち」と訳しています。聖書解説者たちは、ここでの考え方には、これらの人々が文字通りどこかから追放されたとい

うわけではなく、私たちキリスト者は将来キリストと共に真の故郷に行くまで、この地上で寄留者/散らされた者として住んでいるということを意味していると述べています。

私の ESV Study Bible は、これらの人々についてこのように言っています。

ペテロは文字通りの追放について語っているではありません(比較:1 ペテロ 1:17;2:11)。信者たちは、訪れる新しい世界での彼らの真の家と、終末の相続を切望しています。なぜなら、彼らはこの今の悪しき時代の価値観や世界観に従わないからです。信者たちは単なる散らされた者ではなく、神の「選ばれた散らされた者」です。彼らは神に選ばれた人々であり、イスラエルが旧約聖書で神に選ばれた民として指定されているのと同じです(申命記 4:37; 7:6-8; 詩篇 106:5; イザヤ書 43:20; 45:4)。<sup>1</sup>

この手紙の読者は主に異邦人のキリスト教徒ですが、ユダヤ人キリスト教徒も含まれています。手紙の中でペテロはしばしばイスラエルに関する旧約聖書の言葉を用い、その言葉をキリスト教会に適用しています。

次に、私は2節に焦点を当てたいと思います。ここでは、三位一体の三つの位格すべてに言及されています。私たちを選ばれたのは父なる神です。そして、信者の聖別をもたらすのは聖霊の働きです。聖別とは、この罪深い世界から区別され、神に栄光をもたらす聖なる生活を送ることを意味します。

2節の三つ目の重要なフレーズは、私たちが選ばれたのは「イエス・キリストに従うように、またその血の注ぎかけを受けるように(聖められるために)」ためであるということです。従順の最初のステップは、私たちが罪から離れてキリストに従うことに向かうときの回心です。そしてその後、私たちは彼の教えに従って生きることを自らの人生において誓います。この節はまた、私たちがイエス・キリストの血によって清められることを示しています。私たちの罪の罰を支払うのは、十字架での彼の犠牲です。

1章を続けると、14節と15節に次のように書かれています「<sup>14</sup>従順な子どもとなり、以前あなたがたが無知であったときのさまざまな欲望に従わず、<sup>15</sup>あなたがたを召してくださいた聖なる方にならって、あなたがた自身も、あらゆる行ないにおいて聖なるものとされなさい。」

これは基本的なキリスト教の生活様式です。かつて私たちがさまざまな欲望にふけっていた罪の生活から離れ、聖なる神に向かうことです。私たちは神の性質を反映することが求められており、その基本は「すべての行いにおいて聖なる者となる」ことにあります。

2章で、ペテロは9節と10節で、彼のキリスト教の聴衆にこう言っています—「<sup>9</sup>しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。,[申命記 10:15, イザヤ. 43:20; 出エジプト. 19:6, 黙示録. 1:6; イザヤ 61:6; 申命記 7:6, イザヤ 43:21, マラキ 3:17] それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方

---

<sup>1</sup> From the ESV® Study Bible, Crossway; study note on 1 Peter 1:1.

のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。<sup>10</sup> あなたがたは、以前は神の民ではなかったのに、今は神の民であり、以前はあわれみを受けない者であったのに、今はあわれみを受けた者です。[ホセア.1:6,9,10, 2:23]」

私の持っている New American Standard Bible では、新約聖書での旧約聖書の引用は、画面に表示されているようにすべて大文字で書かれています。旧約聖書のさまざまな箇所から、ペテロは神に選ばれたイスラエルの人々についてのさまざまな表現を取り、それをクリスチャンの共同体に当てはめています。私たちは「選ばれた種族…王なる祭司…聖なる国 民…神の所有の民」と呼ばれています。

私たちは選ばれています。そして、私たちは祭司であり、世界に証しを立て、他の人々に創造主との関係への道を示します。そして、私たちは聖なる国民と呼ばれています。聖であることは、キリストの共同体を特徴づけるものです。

それでは、その紹介と復習を踏まえて、今日の箇所である 2 章の後半を詳しく見ていきましょう。11 節と 12 節の初めを見てみましょう。 – 「<sup>11</sup>愛する者たちよ。あなたがたにお勧めします。旅人であり寄留者であるあなたがたは、たましいに戦いをいどむ肉の欲を遠ざけなさい <sup>12a</sup>異邦人の中にあって、りっぱにふるまいなさい。今日の説教の題目「立派にふるまいなさい」は、12 節の冒頭から取ったものです。立派にふるまいなさい。The English Standard Version of the Bible では、この節は「異邦人の中で…行いを尊く保ちなさい」と書かれています。私たちの行い、私たちのふるまいは、尊く、優れていなければなりません——私たちが関わる社会の中の異邦人、信じない者、罪人たちの中です。

立派にふるまいなさい。ふるまいを尊く保ちなさい。

それが今日の私のメッセージのテーマです。

私たちは、創造主である神である父の子どもたちです。私たちには主であるイエス・キリストがいます。私たちは王の祭司であり、聖なる国民です。私たちは父の性質を反映し、かつて従っていた肉の欲にもうふけることのないようにするべきです。私たちが 5 分前に 1 章の 14 節と 15 節で読んだように、『<sup>14</sup>従順な子どもとなり、以前あなたがたが無知であったときのさまざまな欲望に従わず、<sup>15</sup>あなたがたを召してくださいた聖なる方にならって、あなたがた自身も、あらゆる行ないにおいて聖なるものとされなさい。』今、私たちはキリスト者なのに、どうして罪深い行いを続けることができるでしょうか。もし罪を楽しむことを続ければ、社会の信じない人々の間で自分の証しに傷をつけることになります。私たち一人ひとりは、神の父と主イエス・キリストに栄光をもたらすために、名誉と優れた行いをもって行動すべきです。

では、2 章 11 節をもう一度見てみましょう。ペテロは言います。「愛する者たちよ。あなたがたにお勧めします。旅人であり寄留者であるあなたがたは、たましいに戦いをいどむ肉の欲を遠ざけなさい。」私たちはこの堕落した現世に対して異邦人でありよそ者です。私たちはピリピ人への手紙 3 章 20 節が告げている通り、私たちの国籍は天にあります。

ペテロは、私たちがこの寄留者であるからだけでなく、これらの欲望にふけることが「魂に敵対する戦いを引き起こす」ために、肉の欲望を避けるように勧めています。それらは、魂に対して戦いを仕掛けるのです。肉欲にふけることは、私たちの魂を傷つけます。

肉欲について考えるとき、私たちが最初に思い浮かべる罪の種類はたいてい性的な罪です。神は性を創造し、男女が結婚して子供を持つことを望むようにデザインしました。しかし、今私たちは堕落した世界に生きているため、体の欲望が結婚外の性的行為にふける原因となることがあります。聖書はこれを罪と呼んでいます。不倫、姦淫、同性愛行為—これらはすべて聖書で罪とされています。不倫とは、既婚者が結婚していない相手と性的交わりを持つことを言い、両者とも不倫の罪を犯したことになります。姦淫はより広い意味で、互いに結婚していない者同士のあらゆる性的行為を含みます。同性愛行為は、旧約聖書および新約聖書の多くの箇所で非難されています。

性的な罪は、人と人との身体的な性行為だけに関わるものではありません。イエスは、マタイの福音書 5:27-28 で行っています—「<sup>27</sup>『姦淫してはならない。』と言われたのを、あなたがたは聞いています。<sup>28</sup>しかし、わたしはあなたがたに言います。だれでも情欲をいたで女を見る者は、すでに心の中で姦淫を犯したのです。」

マタイの福音書 5 章では、イエスは人々の外面的な行いだけでなく、心の動機に关心を持っています。例えば、兄弟に対して怒ることは殺人と同じだと言われています…そしてここ 27-28 節では、女性に対する欲望も姦淫と同じだと言っています。女性を欲しがり、性的に望むだけで姦淫の罪を犯したことになるのです。性的な罪は単に肉体的な交わりによって行われるものではなく、目や心によっても行われることがあります。女性を欲望の目で見たり、ポルノ雑誌の写真を見たりすることもまた性的な罪であり、ペテロが手紙の中で私たちに控えるように勧めている肉の欲に溺れる行為です。

マタイの次の節がとても印象的だと思います。マタイ 5:29—「もし、右の目が、あなたをつまずかせるなら、えぐり出して、捨ててしまいなさい。からだの一部を失っても、からだ全体がヘナに投げ込まれるよりは、よいからです。」イエスはここで過激な言葉を使っていますが、文字通り自分の体の一部を切り落とす必要はありません。ここで彼が意味しているのは、女性を欲望の目で見てしまうという誘惑に直面したとき、自分に厳しくなる必要があるということだと思います。厳しくすべきです。私が若い頃、この聖句はとても役に立ちました。意味としては、その女性を欲望の目で見続けることを拒否する必要があるということです。顔をそむけなさい。もちろん、見続けたい誘惑があるのはわかりますが、私は自分に厳しくすることを学び、視覚的な快楽を楽しむことを拒否して、ただ顔をそむけるようにしました。それが習慣になりました。女性を欲望の目で見てしまうという問題がある男性には、この習慣を身につけ、自分がつまずくなら右目を切り取るようにしてもいいくらいです……つまり、自分に厳しくして、女性を見続けたり欲望を抱いたりすることをやめ、顔をそむけることです。

ペテロは私たちに「肉欲を慎むように」と教えていました。性的な罪は肉欲の大きな例ですが、罪深い肉的な人間の欲望の唯一の例ではありません。アルコールを過度に摂取する

ことは、酔っぱらいや騒ぎにつながり、体や人間関係にあらゆる種類の害をもたらす可能性があります。神は私たちが自制心を持ち、聖靈によってコントロールされることを望んでおられます。エペソ人への手紙 5 章 18 節は言います「また、酒に酔ってはいけません。そこには放蕩があるからです。御靈に満たされなさい。」 箴言 20 章 1 節 – 「ぶどう酒は、あざける者。強い酒は、騒ぐ者。これに惑わされる者は、みな知恵がない。」

私たちの体が誤用されるもう一つの方法は、食べ過ぎることです。ここで、私が非常に印象的だと感じる別の聖句を紹介します。箴言 23 章 1-2 節 – 「<sup>1</sup>あなたが支配者と食事の席に着くときは、あなたの前にある物に、よく注意するがよい。<sup>2</sup>あなたが食欲の盛んな人であるなら、あなたののどに短刀を当てよ。」 本当に？たくさんの食べ物を食べるのが好きなのはそんなに悪いことですか？聖書はそう考えています。ここで私が読んだのは別の厳しい節です：食べ物の過剰な享楽は非常に深刻な問題であり、この誘惑に屈するよりも自分を処罰するほうがよいほどです。もし食べ過ぎたい誘惑に駆られたら、少し我慢して、自分を抑えてください。それ以上食べるのを拒むのです。これは、あらゆる種類の食べ物に簡単にアクセスできる現代では難しいことです。しかし、過度に食べるのをやめることを学べば、もっと幸せになれると思います。

今日の箇所であるペテロの第一の手紙第 2 章に戻り、11 節と 12 節を読みましょう – 「<sup>11</sup>愛する者たちよ。あなたがたにお勧めします。旅人であり寄留者であるあなたがたは、たましいに戦いをいどむ肉の欲を遠ざけなさい <sup>12</sup>異邦人の中にあって、りっぱにふるまいなさい。そうすれば、彼らは、何かのことであなたがたを悪人呼ばわりしていても、あなたがたのそのりっぱな行ないを見て、おとずれの日に神をほめたたえるようになります。」 その肉の欲望はあなたの魂と戦い、魂に害を与えます – それにふけるのをやめなさい。私たちの社会の異邦人、信じない人々の中で、立派にふるまいなさい。私たちは神の子でありキリストの弟子です。だからこそ、私たちは神と主に栄光をもたらす生き方をしなければなりません。

不信者はしばしば信者を嘲笑します。彼らは創造者への私たちの信仰を尊重せず、私たちの道徳規範も尊重しません。彼らは、あなたがセックスや薬物、アルコールにふけらないことを嘲笑し、すべての政府の法を守ることを嘲笑するかもしれません。しかし、これらの人々がそうする時、12 節が言うことを見てください：彼らがあなたの善行を批判することによって、彼らは「おとずれの日に神をほめたたえるようになる」のです。あなたの道徳的立場に対する彼らの批判そのものが神に栄光をもたらすのです。

私たちは、社会の中で信じない人々の間でも優れた生活を送るべきです。社会において模範的な市民となることで、私たちの神に栄光をもたらすべきです。社会の秩序が維持されることは神の御心であり、私たちクリスチヤンは、私たちにたいして権威を持っている指導者たちを尊重することが賢明です。2 章の残りの部分と 3 章の冒頭では、人間関係における神の御心が三つの大きな領域で説明されています。すなわち、13 節から 17 節には市民の権威者への態度、18 節から 25 節には僕の主人への態度、3 章の 1 節から 6 節には妻の夫への態度が示され、7 節で夫への訓戒があります。次週は 3 章を見ていきます。

1ペテロ 2:13-15 を読みましょう – 「<sup>13</sup>人の立てたすべての制度に、主のゆえに従いなさい。それが主権者である王であっても、<sup>14</sup>また、悪を行なう者を罰し、善を行なう者をほめるように王から遣わされた総督であっても、そうしなさい。<sup>15</sup>というのは、善を行なって、愚かな人々の無知の口を封じることは、神のみこころだからです。」

15節をもう一度 – それは「善を行なって、愚かな人々の無知の口を封じることは、神のみこころだからです。これは数分前に読んだ12節を思い出させます。無知な不信者が私たちの正しい行いを批判することは、最終的に神を尊め、神を栄光化することになります。なぜなら、彼らは無意識のうちに私たちの行いが立派で正しいことを認めているからです。

キリスト者である私たちが、この世界で、この社会の中で正しく行動することは、神の意志です。社会は不完全で過ちを犯す人間によって運営されているにもかかわらずです。指導者たちの不完全さにもかかわらず、彼らは基本的に善惡を理解しており、法を制定し、悪人を罰し、時には社会に貢献した人々を称賛することもあります。私たちキリスト者は、模範的な市民として生きるべきです。

もちろん、ペテロの手紙 第一2章やローマ人への手紙13章の関連箇所に関する聖書注解者たちは、キリスト者が神の戒めに反することを要求する法律でない限り、支配者のすべての法律に従う義務はないと言っています。神の言葉が最優先です。使徒の働き4章では、ペテロとヨハネがエルサレムの神殿の境内で説教していたとき、祭司たちと神殿の守衛が彼らを逮捕しました。彼らはユダヤ会議の前に連れて行かれ、「イエス・キリストの名でこれ以上説教しないように」と命じられました。しかし、ペテロとヨハネは従うことを拒否しました。使徒の働き4章19-20節にこのようにあります – 「<sup>19</sup>ペテロとヨハネは彼らに答えて言った。「神に聞き従うより、あなたがたに聞き従うほうが、神の前に正しいかどうか、判断してください。<sup>20</sup>私たちは、自分の見たこと、また聞いたことを、話さないわけにはいきません。」彼らは評議会の命令を無視し、イエスについて説教し続けました。

ペテロの手紙第一 2章とローマ人への手紙13章が教えているのは、基本的に私たちクリスチヤンは支配的な権威に従うべきであり、これは神の御心だからだということです。これは、キリスト教を信じない人々や批評家に対する良い証しとなります。

1ペテロ2章と16節を読みましょう – 「あなたがたは自由人として行動しなさい。その自由を、悪の口実に用いないで、神の奴隸として用いなさい。」クリスチヤンの自由の原則を利用して法律を無視したり、罪を犯して神の道徳的指示を無視したりしようとしないでください。私たちは神の奴隸です。神の命令に従い、聖書の道徳に従って生きなければなりません。クリスチヤンの自由の原則を悪用しないようにしなさい。

17節 – 「すべての人を敬いなさい。兄弟たちを愛し、神を恐れ、王を尊びなさい。」生きるための4つのシンプルな原則。すべての人を尊重しなさい。なぜなら、創世記第1章

にあるように、すべての人は神の御姿にかたどって造られているからです。キリスト教徒の兄弟姉妹を愛しなさい。私たちは皆、それぞれの個性を持っており、時には互いにいら立たせることもあります。それでも愛するのです。王を敬いなさい。すべての王が好ましい人でなくとも、王を敬うのです。そして神を畏れなさい。神を畏れ、従いなさい。私が若い頃に恐ろしいと感じた聖句の一つは、マタイによる福音書10章28節で、イエスがこう言わされたところです。「からだを殺しても、たましいを殺せない人たちなどを恐れてはなりません。そんなものより、たましいもからだも、ともにゲヘナで滅ぼすことのできる方を恐れなさい。」人を恐れてはいけません。しかし、あなたを創造し、最終的にあなたが受けるべきものを与える神を恐れなさい。その報いは、神に従うことを拒んだ者にとっては地獄での破滅となるでしょう。

次のセクションに進みましょう。しもべが主人に従うこと、神の御心です。1ペテロ2:18-19 – 「<sup>18</sup>しもべたちよ。尊敬の心を込めて主人に服従しなさい。善良で優しい主人に対してだけでなく、横暴な主人に対しても従いなさい。<sup>19</sup>人がもし、不当な苦しみを受けながらも、神の前における良心のゆえに、悲しみをこらえるなら、それは喜ばれることです。」神のしもべが、主人を敬い、主人が非常に意地悪で理不尽であっても従うとき、これは神に喜ばれることです。自分のキリスト者としての良心に従い、不当な状況さえも耐えましょう。世の中には多くの不正があり、時にはそれを耐え忍ぶ必要があります。理不尽な苦しみに耐えることで、あなたもこの世におけるキリスト者の証しとなるのです。

しかし、自分が正しいことをしているか確認しなさい。もし間違ったことをすれば、罰を受けるべきであり、同情は受けるべきではありません。20節 – 「<sup>20</sup>罪を犯したために打ちたたかれて、それを耐え忍んだからといって、何の誉れになるでしょう。けれども、善を行なっていて苦しみを受け、それを耐え忍ぶとしたら、それは、神に喜ばれることです。」忍耐強い人は神に喜ばれます。

イエス・キリストの模範に従いましょう。21-23節 – 「<sup>21</sup>あなたがたが召されたのは、実際にそのためです。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようと、あなたがたに模範を残されました。<sup>22</sup>キリストは罪を犯したことがない、その口に何の偽りも見いだされませんでした。[イザヤ53:9] <sup>23</sup>ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。」

キリストは十字架上でだけ苦しんだのではなく、偽りの告発を受けた裁判のときやその他の時も苦しました。また、ルカの福音書22章63-65節やヨハネの福音書19章2-5節にあるように、兵士たちにあざけられたときも苦しました。しかし、彼は不当な扱いに対して答えませんでした。23節でこう言います「おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。」イエスは真実を知り、公正に裁く神なる父に自分を委ねました。

キリストが十字架で私たちのためにしてくださったことを、もう一度思い出しましょう。24-25節 – 「<sup>24</sup>そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがた

は、いやされたのです。<sup>25</sup> あなたがたは、羊のようにさまよっていましたが、今は、自分のたましいの牧者であり監督者である方のもとに帰ったのです。」  
彼は私たちをとても愛してくださいり、私たちのために命を捧げ、私たちが魂の牧者であり守護者である方のもとに戻るのを助けてくださいました。

私は 24 節が特に印象的だと思います。イエスは私たちの罪の罪のために死なれました。  
それによって私たちは罪に対して死に…、それによって私たちクリスチャンは罪に対して死に、そして私たちクリスチャンは義に対して生きることができます。 今日、私は出発点に戻って話を終えます。私たちはこの地上で異邦人であり寄留者です。だからこそ、天におられる父の道徳に従って歩むべきです。私たちは天の市民だからです。私たちはこの地上で尊い生活を送り、異邦人や信じない人々への証人として生きるべきです。

今日の戒めを振り返り、まとめてみましょう：

- ・行いを優れたものに保ちましょう。
- ・行動を立派なものに保ちましょう。
- ・私たちはこの世界では異邦人ですので、その罪深い方法に従ってはいけません。
- ・ペテロは、肉の欲に従うことをやめるよう促しています。これらは私たちの魂に害を及ぼします。
- ・社会の批評家たちは私たちを嘲笑したがっていますので、この世で正しく歩むことで良い証しを示しましょう。
- ・統治する権威を尊重し、法律に従うことで、私たちは社会の模範市民となることができます。
- ・キリストは私たちの罪のために亡くなりましたので、罪に対して死に、罪が私たちを支配することのないようにしましょう。